

八幡平市市政モニター第1回アンケート結果について

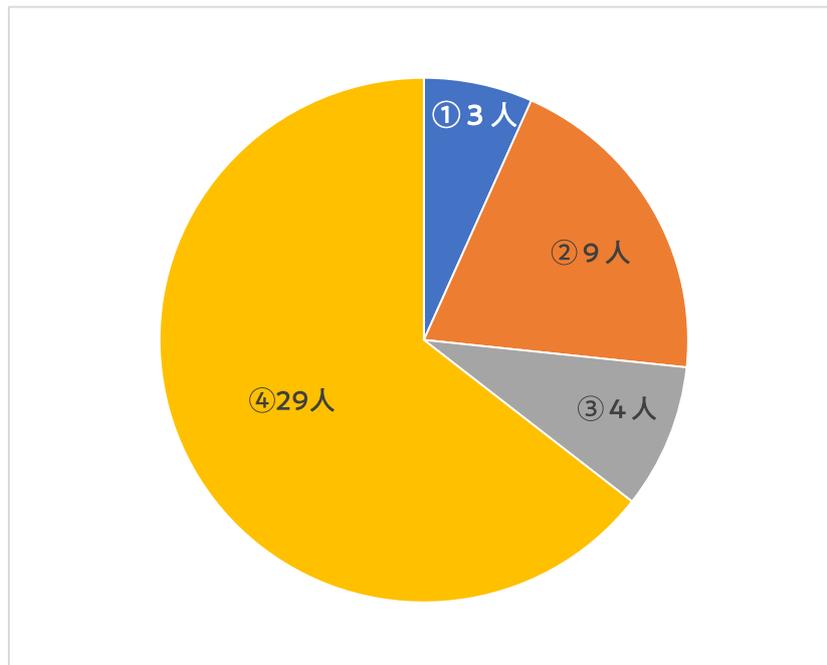
1 第1回アンケート【令和8年1月13日依頼】

- (1) 対象者 八幡平市市政モニター（50人（女性31人 男性19人））
- (2) 内容 多文化共生について
- (3) ツール Googleフォーム

2 第1回アンケート結果（全10問、市政モニター回答者数45人、回答率90%）

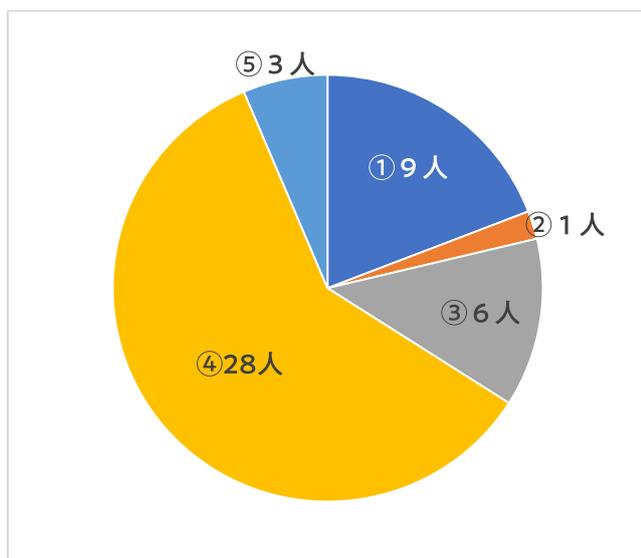
Q1：外国人市民（市内に居住していると思われる人）と、どの程度の頻度で接する機会がありますか
（1つ選択）

- ① 毎日・週に数回程度
- ② 月に数回程度
- ③ 半年に一回程度
- ④ ほとんどない



Q2：生活ルールや習慣の違いが原因と思われる外国人市民（市内に居住していると思われる人）の「誤解や困りごと」を見聞きしたことはありますか。その内容はどんなことですか（複数選択可能）

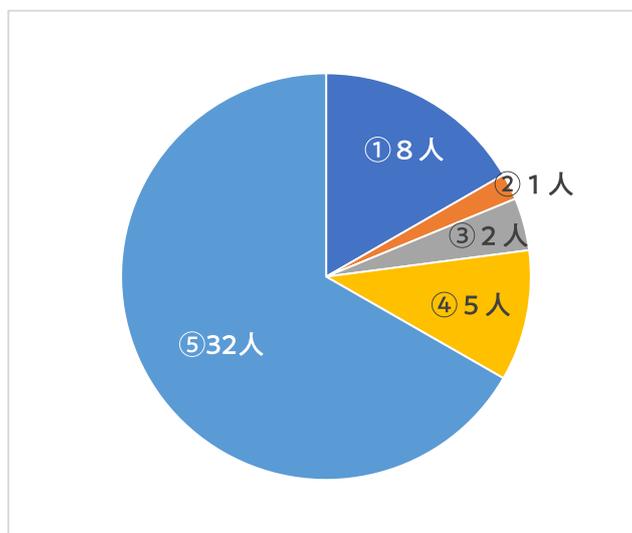
- ① 日常会話・簡単な情報伝達の場面
- ② 公共交通機関（バス、電車など）の利用に関する場面
- ③ 専門的な情報伝達（行政・医療・契約など）の場面
- ④ ない
- ⑤ その他



- ⑤ その他
 - ・ 宗教による食べ物の制限
 - ・ 食や物に対する文化？考え方の違い
 - ・ 自転車のルール

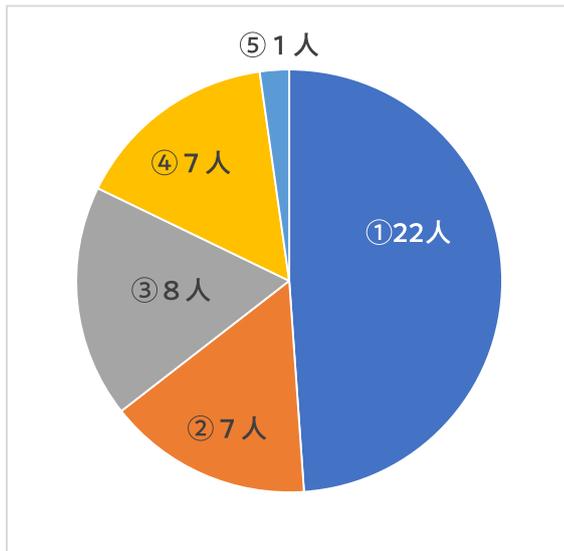
Q3：外国人市民（市内に居住していると思われる人）と「円滑なコミュニケーション」が取れず困った、または不便だと感じたことはありますか。その内容はどんなことですか（複数選択可能）

- ① 日常会話・簡単な情報伝達の場面
- ② 地域活動や自治会などへの参加
- ③ 公共交通機関の利用に関する場面
- ④ 専門的な情報伝達（行政・医療など）の場面
- ⑤ 特にない



Q 4 : 外国人市民（市内に居住していると思われる人）が「市の情報」をより得やすくするために、市が特に力を入れるべきだと思う手段は何ですか（1つ選択）

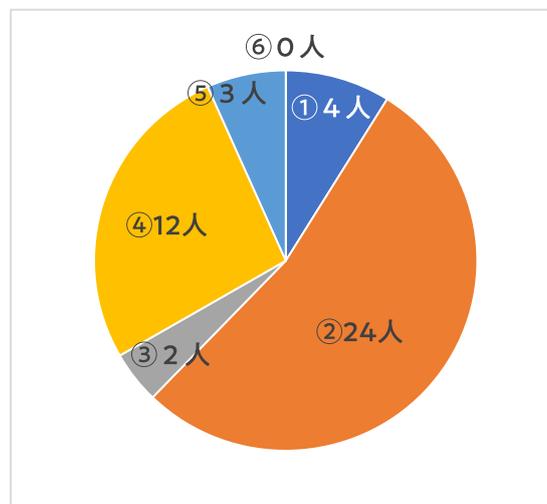
- ①多言語対応の情報ウェブサイト・アプリ
- ②SNS（LINE、Facebook など）を通じた情報発信
- ③多言語の広報紙・メールマガジンの発信
- ④行政窓口での「やさしい日本語」や通訳対応
- ⑤その他



⑤その他
google 翻訳など、ユーザー自身で対応できることも増えている。web 上での日本語表記を平易なものにして、google 翻訳が正しく翻訳できるように配慮すれば、多言語にも対応が可能となるのではないかと思う。

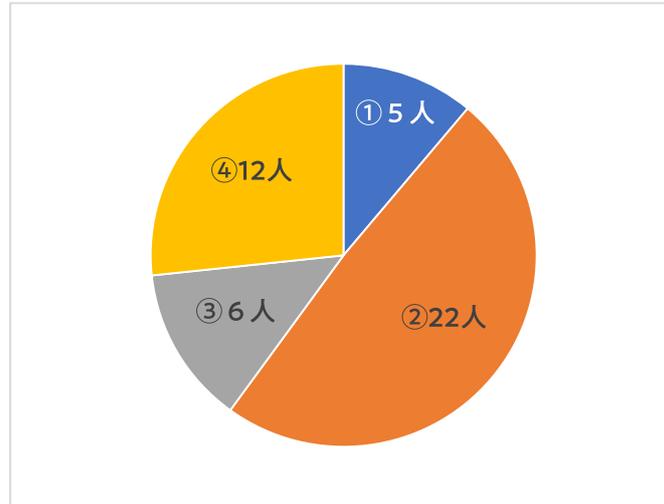
Q 5 : あなたが考える「多文化共生の推進を妨げている、最大の障壁」は、何だと思いますか（1つ選択）

- ①日本人側の外国人市民への理解不足
- ②言葉の壁と情報伝達手段の不足
- ③行政や地域コミュニティの受け入れ体制の遅れ
- ④外国人側の日本のルールや文化への理解不足
- ⑤日本人と外国人が交流できる場所・機会の不足
- ⑥その他



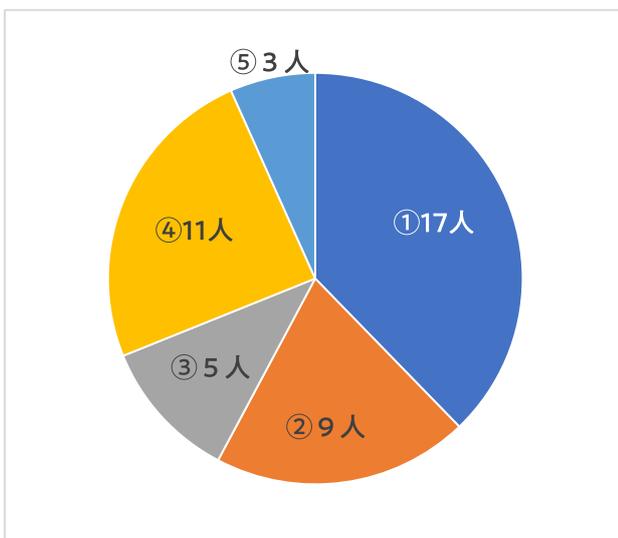
Q 6 : 外国人市民 (市内に居住していると思われる人) との交流を目的としたイベント等がある場合、あなたはどの程度参加してみたいと思いますか (1つ選択)

- ① ぜひ参加したい
- ② 興味はあるが、活動内容や言語の壁が不安
- ③ 参加意向はないが、情報収集のための研修などには参加したい
- ④ 参加する意向はない



Q 7 : 外国人観光客が当市を訪れた際、「不便を感じているのでは」、「改善が必要なのでは」とあなたが考える点は何ですか (1つ選択)

- ① 交通機関、観光地や道案内等の情報不足
- ② 宿泊施設や飲食店の多言語対応不足
- ③ 観光案内所や行政窓口での対応不足
- ④ 地域特有の文化や習慣に関する情報不足
- ⑤ その他

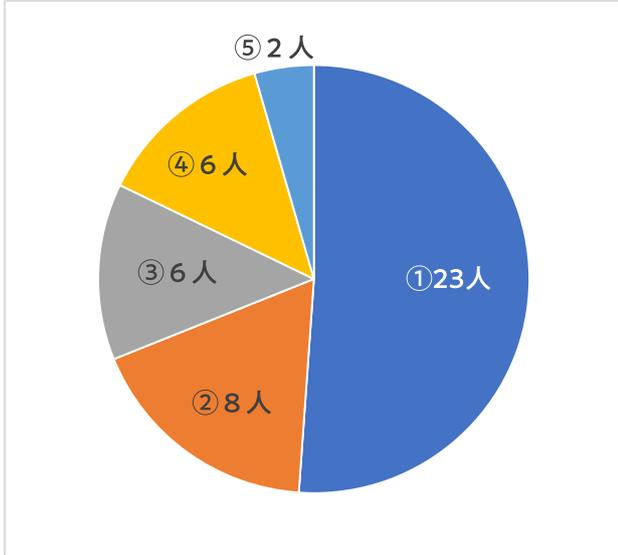


⑤ その他

- ・ 宿泊施設、飲食店、観光案内などで通訳を出来ない人が多すぎる。ボランティアで通訳してあげてますが外国人も日本語が出来なさすぎる
- ・ スーパーでの買い物 (表示や品物の表記)
- ・ 安比周辺以外でも、『通行止め』等の重要な標識は多言語が良い。通ろうとした観光客の方がいました。

Q 8 : 外国人にとって魅力的になるために、最もアピールすべき要素は何だと思いますか（1つ選択）

- ①豊かな自然環境と静かな生活
- ②安定した仕事や雇用の機会
- ③地域の伝統芸能や祭りへの参加機会
- ④治安の良さと子育てしやすい環境
- ⑤その他

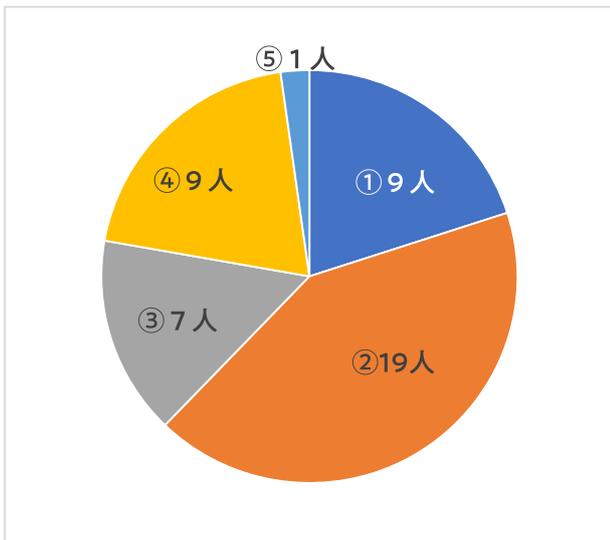


⑤その他

- ・ イベント、お互いに交流出来るようなイベント、スポーツや文化交流会への参加
- ・ 豊かな自然と産業・文化

Q 9 : 多文化共生が進むことで、最も期待する「メリット」は何だと思いますか（1つ選択）

- ①地域の文化や多様性の向上
- ②商業や観光の活性化
- ③労働力不足の解消
- ④地域人口の維持・増加
- ⑤その他



⑤その他

これからの地域を良い方向するために学ぶ機会、新しい発想を得る機会が増える

Q10：上記の設問以外で、あなたが考える「多文化共生を推進するために、市が最優先で取り組むべき具体的なアイデア」を一つ、簡潔にご記入ください。(50 字程度)

- ・しっかりとした身元を確認し、それぞれの文化・宗教上の違いを説明する。
- ・老若男女を問わずに気楽に外国人と触れ合う機会を増やす。
- ・八幡平市と諸外国の文化などの違いが、一冊で分かるような冊子があるといいなあと思います。日本語だけでなく、英語、中国語バージョン等があるといいのではないのでしょうか。
- ・先日スーパーのレジで困っている外国人を見かけました。私も 2 歳の子を連れていたので何もできなかったのですが、レジの店員と言葉が通じず、困っていた様でした。普通に暮らしていく中でこうしたことがあるということとても大変だと思います。スーパーに翻訳機、それ専用の 아이폰 やタブレットを置いたらもっと外国人の方が過ごしやすく、生活しやすくなるのではと思います。日本語講座や外国語講座を市で開催して下さっても、皆さん仕事などが有りますし、参加できる方も限られてくるので…長文ですいません。
- ・日本の礼節や文化、日常生活のルールの発信。「郷に入っては郷に従え」市民にとって害をなす外国人はいらんとする。そもそも論、多文化共生なんて無理ちゃう？
- ・みんなが参加したいと思うお祭りやイベント
- ・外国人市民が居住している周辺に外国人向け(品物が)スーパーを作り、そこに日本人市民も行けるようにすると、なかなか接することができない人も接する機会が増えて、お互いに住みやすい環境を作ることができるのではないかと。現在はあまり出会うことがないです。
- ・その人の紹介や何の為にそこに居るのか？また何を欲しているのか？その様な事が分かる様なイベント
- ・広報などで市内に住んでいる外国人の紹介、どこにどんな人が住んでいるのか知りたいです
- ・言葉の壁をなくした方がいい。
- ・地域観光(交流)ツアー
- ・お互いに自由に表現しやすい環境で話せる機会が、短時間で頻繁にあっても良いと思う。
- ・人数を受け入れる事に重点を置かず、日本の生活様式を理解して貰える様に説明会など
- ・行政サービスの言語・制度の壁を下げる
- ・他国文化などを知る機会や触れる機会の場をつくる(食、つくる、食べる)
- ・翻訳機の貸し出し
- ・他国の人との共生を取り持つ知識習得系(語学や生活習慣等)の講座開催など
- ・他の地域での問題点を見ると、地域の人と円滑に暮らすためのコミュニケーションが必要だと思う。地域での顔合わせ会など始めに開催する事で相互理解を得、今後の良好な関係を保ちやすくなるのでは。
- ・お互いの言語が理解できるように簡単な英会話教室など
- ・地域行事への参加等
- ・思いつかない
- ・外国人を交えたイベント・祭りの開催
- ・外国語を話せる市役所職員を採用し、専門の部署を設置してのきめ細やかな対応が出来るようにす

る。観光は勿論、留学、ワーホリ、移住などを積極的に推進する。また、現在住んでいる外国人の生活の充実と満足度向上のため。

- ・日本の文化を理解してもらうこと
- ・身近なコミュニティセンターのスタッフに外国人居住者を採用。センターの行事として『やさしい日本語』『やさしい外国語』講座、外国のイベントを催す。私の地域では居住者と交流する機会がない為。
- ・広報で海外から来ている方を紹介するのはどうでしょうか（どんな目的・仕事で来ているのか、八幡平市に住んでの感想）
- ・暮らしていく上で必要な場所、例えばスーパー、病院、役所などの情報をわかりやすく伝える。必要などころには多言語表示をする。元々住んでいる八幡平市民側にも働きかけをする。